

【創育クリエートメールマガジン vol.9】 [大学入試改革の認知度]

2018.5.22 発行

日頃は格別のご愛顧を賜りまして、ありがとうございます。

本メールは、弊社、創育クリエートが送信元となり、森上教育研究所の協力のもと、教育業界に関するさまざまな情報をお届けするメールマガジン「創育クリエートメールマガジン」です。

なお、本メールは、日頃お付き合いのある、学校関係者様、企業ご担当者様、以前にお名刺を交換させていただいた方へお送りしています。

さて、第8回「理工系人材のニーズ」はいかがでしたでしょうか。

第9回は、「大学入試改革の認知度」がテーマです。

ぜひ御愛読いただければ幸いです。

＝大学入試改革の認知度＝

4月20日国立大学協会は、理事会において2020年度からスタートする大学入学共通テストで導入される英語の民間試験について、配点割合を英語全体の「2割以上」とする案をまとめ各大学から意見を聴取することとしました。5月中に

結論を出し、それを受けた各大学は 7 月ごろに共通テストを使った入試の実施方針を公表する予定です。

英語の民間試験活用については、この 3 月に対象とする民間資格・検定試験が認定され、徐々にその活用方法が明確になってきました。

2020 年度の実施に向けて徐々に着地点の姿が見えてきた大学入試改革ですが、実は保護者の認知度が低いことがわかりました。

子どもが公立小中学校に通う保護者を対象に朝日新聞社とベネッセ教育総合研究所が 2017 年 12 月～2018 年 1 月に行った調査によると、大学入学共通テストの変更内容について、「よく知っている」「だいたい知っている」と答えた人は、小学生保護者で 14.8%、中学生保護者で 17.6%となっています。

一方、中学生保護者の 26.9%は「変更されることを知らない」と答えています。また、今回の教育改革で英語教育を充実させることや大学入試において英語 4 技能すべてを評価する改革が行われることを知っているかという問いに対しては、小学生保護者の 37.6%、中学生保護者の 36.5%が「よく知っている」「まあ知っている」と回答しています。

テレビや新聞等のマスコミでは大学入試改革について何度も報じられていますが、その内容についての保護者の認知度は意外に低いものでした。特に、改革第一世代となる現中学生の保護者の認知度が低いことに驚かされます。

マスコミで頻繁に報じられているのは、もっぱら英語の民間資格・検定試験の活用や記述式問題の導入についてです。この調査の問いにはありませんが、マスコミで取り上げられることの少ない個別選抜の改革についての認知度はさらに低いことが予想されます。

個別選抜改革は国立大学がリードするかたちですすでに取り組みが始まっています。また、2017年の早稲田大学入学者の約4割はAO・推薦入試によるものとなっているように、私立大学においても今後はますますこうした取り組みが増えていきます。

生徒のみならず、保護者が共通テストや個別選抜の改革内容について知ることとは、いち早く効果的な対策を講じることにつながります。そのためには、入試改革の認知度の低さを意識した上で、学校が生徒・保護者に対して、タイムリーに、また、わかりやすく情報を伝えていくことが重要になっています。

(執筆：森上教育研究所アソシエイツ 高橋 真実)

いかがでしたでしょうか？

次回も皆さまにとって有益となるような教育情報のメールマガジンを配信できるよう努めて参りたいと思います。

なお、本メールマガジンですが、内容等についてのご意見、アドレス変更、配信停止については末尾のE-mailアドレスよりご連絡をお願いいたします。

■送信元：株式会社 創育クリエート

東京都港区西新橋 3-24-3

T E L . 03-5472-5772

create@soiku-c.co.jp